

多品目露地野菜産地における 契約加工トマトの栽培推進

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

J A常総ひかり加工トマト部会は八千代町の生産者を中心として平成25年に発足し、カゴメ株式会社のジュースの原料となる加工トマトを契約栽培しています。普及センターでは、露地野菜経営の所得の向上・安定化を目的とする多品目経営推進の一環として、新品目の導入を関係機関とともに推進してきました。その中でも加工トマトは、夏季の安定した収入の確保と、雇用労働力の有効活用といった観点から導入効果が高く、産地の主要な品目の一つとして定着しています。

収益性向上に向けた経営指導

加工トマトの導入が進むにつれて、収量や品質に生産者格差が見受けられるようになりました。そこで、普及センターでは、安定多収を目指して、栽培・販売データから加工トマトの経営モデル（図1）を作成し、防除や収穫等の適期作業を確保できる適正規模へ誘導しました。その結果、生産者の半数以上が栽培面積を適正化し、反収が3年間で24%向上しました。

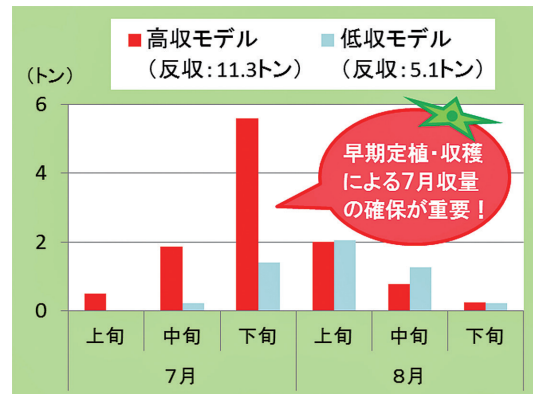


図1 加工トマト増収に向けた経営モデルの例

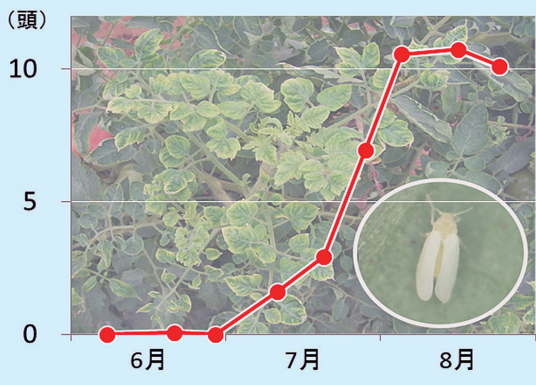


図2 コナジラミ類の捕殺数の推移

害虫の発生予察による適期防除推進

黄化葉巻病はタバココナジラミによって媒介され、減収要因となるトマトの重要病害です。普及センターでは黄化葉巻病の発生を徹底防止するため、講習会等での防除指導に加え、粘着トラップを用いてコナジラミ類の発生状況をモニタリング（図2）し、SNS等を通じて生産者に周知しました。その結果、適期防除が徹底され、黄化葉巻病の発生を0件に抑止することができました（平成29年）。

全国トップの産地として

産地と関係機関が一体となった取組の結果、当部会の生産量は全国1位（平成28年）、平均反収はカゴメの設定基準7トンを上回る9.2トン（平成29年）となり、（一社）全国トマト工業会から多数の優良生産者が表彰を受けています。担い手不足等により縮小している産地もある中、当該産地の加工トマトは露地野菜経営における重要な基幹品目の一つとなり、その規模は拡大傾向にあります。これからも普及センターでは、全国トップを確固たるものとするため、支援してまいります。



優良生産者の表彰